

山下さんを送る

山本 祐 靖 (素粒子物理国際センター)

山下さんは理科大学を卒業された後、1960年に理学部物理学教室の野上研究室に技官として奉職されました。その当時のお仕事は理学部一号館の地下40号室と、今はない中庭の蒲鉾型の建屋にあったバンデグラフ加速器の運転、保守をすることでした。

1962年より浅野キャンパスにタンデム型バンデグラフ加速器を設置する計画が認められ、山下さんはその設計、製作などその完成に向けて初期より献身的に取り組まれました。バンデグラフの本体は東芝によって製作されましたが、色々な事情で多くの物は手作りしなければならず、山下さんはたいへんな苦労をされました。また完成後も真空管を使ったコントロール系のため頻繁に起きるトラブルや、プリーを持ち上げなければならない帯電用のベルトの交換等、この装置の保守、運転のために山下さんは心身をすりへらしました。その結果やっとタンデムで実験ができるようになりました。その外にも色々な事情があり苦労が絶えなかったようです。そのためか、山下さんは胃をこわされ、酒量も減ったときいています。1973年にタンデムは工学部の原子力センターと共同で共同利用施設となり、山下さんは原子力センターと兼任になりました。1979年野上教授の退官後は形のうえでは有馬教授の技官とされましたが、業務は変わらずタンデムの運転、保守、実験に従事されました。地震のため加速管が破損するなど苦労は絶えませんでした。有馬教授をはじめ色々な方の支援もあり、1980年に改良されたタンデムは、現在物性研、教養学部、核研、理学部、工学部等多くの部局の研究者により利用され、さまざまな学際的な成果を上げています。一時は瀕死の状態とも思われていたタンデムの今があるのも

山下さんに負う事が多いと言えます。

1986年に山下さんはその勝れた業績を認められ助手に昇格され、同時に素粒子物理国際センターに移られました。余人を以て変えがたい人物ですのでセンターの業務に従事するかたわら、タンデムでの仕事も続けられました。センターではジュネーブにあるセルン(CERN)という研究所のLEPと呼ばれる大加速器で実験するためのOPAL検出装置の一部である鉛ガラス電磁シャワーカロリメーターの組立、設置のため四回も現地に出張され、大きな貢献をされました。

山下さんは早くより技官の地位向上問題について関心を持たれその実現のために多大の努力を払われました。私が山下さんと親しくなったのは技官問題について非公式な話し合いを始めた頃です。いつも笑顔を決やさず、主張するところは主張し、公平な立場で技官の地位向上を説いておられたことを印象深く思い出します。山下さん達の努力により技官問題検討委員会が発足し、この問題が積極的に取り上げられるようになったのです。山下さんは理職の執行委員を四回なさり、職員全体の待遇改善にも努力されました。山下さんは責任観念の強い方で、また大変面倒見の良い方です。彼にお世話になった学生、同輩、後輩、教官は数多くいます。その一人として心から感謝したいと思います。

胃を悪くされましたが、15、6年前から始められたジョギングで体力は十分おありのようですので、退官後もお元気で活躍されることと思います。本当に長い間理学部、とくにタンデムのためご尽力くださり有難う御座いました。これからも是非理学部に遊びにきて、あの笑顔をみせてください。ご多幸を祈りながら筆を置きます。